

している

■ 楽曲データ

歌詞：賀来琢磨 作詞

楽曲：本多鉄磨 作曲

発表：－

初演：－

初出：－

管理番号：M1173

■ 創作の経緯

創作の経緯等は不明。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集 こども編』第1巻収録

底資料：『仏教讃歌名曲集』全音楽譜出版社 1964年

比較資料1：『佛教讃歌2』真宗大谷派 1966年

比較資料2：『佛教讃歌 こどものうた』本願寺出版協会 1973年

比較資料3：『仏教保育名曲集』全音楽譜出版社 1960年

校訂の詳細：特になし

■ 解説

《している》は、非常に簡潔でわかりやすい仏教讃歌です。同時に、子どもの内面に働きかけるという意味で、よく考えられた歌だともいえます。「ののさまは…ぼくのしたこと している」と唱えるとき、喜ばしく思う日もあれば、少し後ろめたい気分になることもあるでしょう。しかし、どんな時でも仏さまは子どもが一番の味方です。先生方は、包み込むような柔らかな声と一緒に歌って、そのことを子どもたちに伝えてあげてください。

◆ 作詞者・作曲者について

作詞者は、舞踊家の賀来琢磨（1906～1975）です。今日まで続く児童舞踊を確立した人物として知られるほか、立野勇のペンネームで仏教讃歌に数多くの詩を提供しました。作曲は、幼児向け讃歌の優れた書き手である本多鉄磨（1905～1966）が手がけました。

◆歌詞について

「くちではなんにもいわない」というところに注目してください。周囲の大人は、良いことは褒め、悪いことはその都度叱ってくれますが、仏さまはそうではありません。だからこそ、子どもたちは「なんにもいわない」仏さまを特別に思うのではないのでしょうか。

また、文末の「しっている」は、歌う者を内省へ促す言葉になっています。ひとりひとりが、自分の気持ちを素直に表しつつ、仏さまと対話をするような気持ちで歌いたいものです。

◆歌い方のヒント

体がかさがさと動いていると、心も落ち着きません。まず、ゆったりと構えてよい姿勢をとりましょう。ピアノ伴奏は、ごく基本的な書法で書かれています。が、「しっている」の部分だけ少し陰影がつけられています。ふっと浮いたような一度目の「しっている」と、二度目の柔らかく受けとめてくれるような「しっている」の雰囲気の違いをよく感じて歌うとよいでしょう。

解説執筆：石川紀久子（元・本願寺仏教音楽・儀礼研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所] 委託研究員）

※本解説は、「仏教讃歌」No. 85（保育連盟機関誌『月刊保育資料 まことの保育』第689号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.